

コラム

気候変動二題

地球環境ユニット 田上貴彦

ワインと気候変動

2010 年 3 月の小宮山研究員（当時）によるコラム「ワインとエネルギー・環境問題」の続編、ヨーロッパ編を書いてみたい。

気候変動枠組条約の事務局はドイツ・ボン市に置かれている。毎年末に開かれる条約締約国会議（COP）・京都議定書締約国会合（CMP）のほかに、補助機関（SB）会合が毎年 5～6 月にボンで開かれる。CDM 理事会、JI 監督委員会もほとんどの会合がボンで行われる。

ドイツには 13 のワイン生産地域があり、そのうちアールやミッテルラインがヨーロッパのワイン生産の北限とされている。アールは、ボンの南、ライン川の支流アール川沿いの地域で、白ワインが主流のドイツではめずらしく、主に赤ワインが生産されている。サイドイベントでも供されるのをよく見かけるワインである。ミッテルラインのケーニヒスヴィンターは、ライン川をはさんでボンの東岸にあり、ミッテルライン全体としてはスパークリングワイン（ゼクト）が中心なのに対して、ドラッヘンブルート（竜の血）と呼ばれる赤ワインが（特に日本では）有名である。近くにドラッヘンフェルス（竜の岩）という山があり、ニーベルンゲン伝説のジークフリートが竜退治をしたとされていることから名付けられた。ケーニヒスヴィンターの山側にはペータースベルクという西ドイツ政府時代に迎賓館だったホテルがあり、2009 年 12 月にコペンハーゲンで開かれた COP15・CMP5 での「流血」を癒すために、各国閣僚による気候対話が 2010 年 5 月に開かれた場所でもある。

昨年、SBに参加した際には、KLM オランダ航空を利用した。KLM では、南アフリカワインが供されることが多く、旧宗主国と植民地との関係を思わせるが、このときはワインのラベルに「オランダ産」と書いてあるのを見て地球温暖化との関係を考えさせられた。ラベルには、ブドウ畑はオランダ南部の沿岸州であるゼーラント州の島にあり、2000 年に生産が始まったとあった。ゼーラント州は緯度としてはアールやケーニヒスヴィンターよりも 1 度ほど北にある。

近年、イギリスのスパークリングワインも注目を浴びつつある。大規模なブドウ畑が、サリー州やケント州に広がっている。そもそも 1000～1300 年の中世温暖期において、イギリスでは、53° N 以南のイングランド中央部、南部、東部でブドウの栽培が盛んであった。その後、小氷期に向けた寒冷化により栽培は衰退していった（もちろん、寒冷化だけでなく、貿易自由化や醸造規制といった人為的要因も大きいかもしれない）。

イギリスのワインは小氷期を経て戻ってきたが、2013 年以降の枠組みに関して同じ議論の繰り返しは避けたい。6 月 6 日から 2 週間、ボンで SB が開かれる。

勝どきと気候変動

エネ研のある勝どき・月島地域は、明治期に造成された埋立地であるが、その下には最終氷期の「昭和通り谷」と呼ばれる深さ 20m ほどの谷が埋没している。

谷には沖積層が堆積しており、大正関東大震災時の調査によれば、一般に、沖積層基底が -20m 以深のところ、昭和通り谷や丸の内谷などの埋没谷のあるところ、沖積層が厚いところは倒壊が激しかった。今回の東日本大震災でも、昭和通り谷の直上と思われるところでは段差やうねりが生じているのが見られた。昭和通り谷は、古東京川と呼ばれるかつての利根川に合流して浦賀水道の現在の水深で約 90m のところで太平洋にそそいでいた。上流側は、不忍池から谷田川（藍染川）につづき、谷根千¹、北区の霜降商店街を通過して、王子・飛鳥山近くで音無溪谷が抜ける前の古石神井川につながっていた。当時（約 20000 年前）の気候は現在の十勝平野に近く、ナウマン象の骨が日本橋小伝馬町、JR 山手線原宿駅近くで発見されている。第四紀学会のキャラクターとなっている「はじめ人間ギャートルズ」の景観である。

20000 年ぐらい前から 5000~6000 年前の気候最適期（ヒブシサーマル期）にかけて気温と海面が上昇した。この海面の上昇は、有楽町海進とか縄文海進とか呼ばれている。

当時（5000~6000 年前）の海岸線は貝塚の分布から推定することができる。仕事で港区の三田や芝公園を訪れることが多いが、そこには伊皿子貝塚や芝丸山古墳の東に丸山貝塚がある。伊皿子貝塚、丸山貝塚ともに武蔵野台地（淀橋台）東端に立地し、標高は十数 m である。現在の海岸線から 500m~1km 離れた台地の真下まで波が打ち寄せ、台地の縁は海食崖となり、関東平野では埼玉県栗橋（現久喜市）付近まで海が入り込んでいた。伊皿子貝塚の貝層の剥離標本は、田町駅・三田駅近くの港区立港図書館 4 階にある郷土資料館に展示されている。また、伊皿子貝塚近くの三田台公園には、貝層の復元層が展示されている。5000~6000 年前の縄文前期は温暖期であり、千葉県館山市沼集落ではサンゴ層が発見されている。

気候変動と言われても、地球レベルで将来の話ではなかなか実感がわかないが、地域レベルで過去に遡ることで学べることも多い。皆さんも、ブラタモリでも見ながらアースダビングしてみませんか。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp

¹ 台東区谷中、文京区根津および同千駄木にわたる地域